

ツイキャス読書会 課題図書 綿矢りさ 『勝手にふるえてろ』

信州読書会では、二週に一度、ツイキャスをつかった視聴者参加型の読書会を開催しています。

信州読書会のメルマガ登録者は、課題図書の読書感想文を 800 字で書いていただければ、放送中に紹介します。
(募集要項はメルマガでお伝えします)

また作品に関する質問・感想などは、どなた様も、放送中ツイートいただければ、とりあげます

信州読書会 ツイキャス <http://twitcasting.tv/skypebookclub>

『信州読書会』メルマガ登録はこちらから http://bookclub.tokyo/?page_id=714

今後のツイキャス読書会の予定です。 http://bookclub.tokyo/?page_id=2343

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>

『Column Bar 信州 及び ツイキャス読書会』音声のバックナンバーです。
<https://www.youtube.com/playlist?list=PLVj9jYKvinCv5e0gxXpE28Mbd0A1iGz2R>

(感想文は動画の下の説明欄に PDF へのリンクを張ってあります。)



第 8 回のツイキャス読書会の課題図書は、綿矢りささんの小説『勝手にふるえてろ』（文春文庫）です。

今回はたくさんお応募がありました。

読書感想文下さった皆さんありがとうございます

それではご紹介していきます。初登場、メルマガ読者KSさん

「勝手にふるえてろ」を読んで感想文

「二よリーが欲しい」。

一番がいい。ヨシカにとっての一番は夢王子。

ヨシカは夢王子から卒業して現実の王子さま、じゃがいも王子に惹かれて好きになって本当の愛に気づく物語だと思いました。

最初はコンソメスープの匂いのするじゃがいも王子は夢王子には敵わないけど正直で不器用ながらヨシカに真っ直ぐに向き合ってくれる良い所を見られるようになって少しずつ惹かれるが、夢王子を思い続けてきた期間が長くてなかなか吹っ切れない所が共感できました。

誰のなかにも夢王子はいるけど、夢王子は夢だからトキメキを保てるのもで、遠い星にいるから輝いているんだと思う。

ほんとのしあわせは自分の近くにあってちゃんと目を開けて見ることが大切だと改めて気づかせてくれました。相手としっかり向き合える事ができなければ、近くにある大切な存在に気付かず夢王子の世界から抜け出せないのだと思う。

「ヨシカには理屈なしで惹かれる。いま妙ちきりんな嘘を暴露されても、それでもどうしても一緒にいたい」という、じゃがいも王子の言葉。私がヨシカなら、じゃがいも王子が一番になった瞬間だと思う。

(おわり)

『勝手にふるえてろ』感想文

ヨシカは捻くれているようだけれど、実際は多くの女性は共感するであろうことを体現してくれている。同性への嫉妬からくる怒り、結婚と恋愛との間のジレンマ。いつどこにでもありふれた話である。ただ、普通の女性とヨシカの違いは、ほんとは人気者に憧れるのに、容姿の劣等感があって、その欲求を切り捨ててしまったところだ。そのせいで今まで他人とまともに交流してこなかったのが、考え方に偏りがある。ヨシカは、イチが人気者であるのは彼の怯えに活発な人々が群がっているからだといっている。イチの隠しきれなかった心の弱さに同情の念を感じ、むしろそれを強みにして周囲とうまくやっているイチを応援することで、不満足な日常に多幸福感を得ていたのかも。

ヨシカは美的感覚が優れており、イチの魅力を敏感に、深く掘り出す。それは彼女の持つ良いところだった。その反面、醜いものに関しては異常なまでの拒絶がみられる。

例えば、ヨシカは、鍋パでせっせと動く女子を、他人を出し抜いてまで自分をよく見せようとする行為だと評価している。ヨシカの中の、人気者になりたいという排除した欲求を投影しているから、彼女らに嫌悪感を感じざるを得ないのだろう。

そして、二の存在。彼は、好きになったヨシカに、自分の魅力を小出しにしてアピールしている。それがヨシカにとっては気持ち悪くて仕方がないのだ。

長い間温め続けてきたイチの幻想が冷めたところで、ようやくヨシカは二と向き合うことになる。物語は、そこで終わりを迎えた。ヨシカは、これからやっと女性としての幸せを見出せるかもしれない。彼女なりに努力はしているのだから。

(おわり)

『「勝手にふるえていろ」を読んで』

江藤良香26歳、中学2年生のとき同級生、イチこと一宮に対して鮮烈な片思いを経験する。彼の振る舞いや諸々の特徴は、良香にとって何かと好ましいものであったか、卓越したとも言える集中力をもって片思いに沈んでいく。なんと、イチとの会話は通算で3回のみ。それらは彼女の想いに、イチとの精神的な繋がりを得ていく素晴らしい記憶として刻まれた。イチと繋がっているという思いが、イチへの想いに希望を与え、その想いは落ち込んだ彼女に潤いを与えた。おそらくその営みは、穏やかでゆるやかなものであっただろう。

そんな良香が、同じ会社の同期で営業のニから誘いを受け、二度目のデートで告白された。心の中で否定的なごたくを並べながらも誘いは断らず、その振る舞いは、どこか受け入れることが前提になっている様に見える。そんな中、彼女はイチへの想いをしきりに思い起こす。一方的な片思いしか知らない良香。しかしそれは、イチとの繋がりを確信すればこそ。ニから迫られるにつれ、高まり募るイチへの想い。良香はついに、イチと再会すべく行動を起こす。

同級生のマンションで良香は、一宮と再々会した。彼の振る舞いは彼女の持ち続けてきたイメージと一致していた上、彼は彼女に対して優しく、好意まで寄せてきた。しかしながら支えとしてきた彼との繋がりがなかったことを知り彼女は、もっぱら霧島との接触で高めてきた彼女のイチに対する想いと、イチは、関係が無いということに気がつき、動揺する。結局、実在する一宮は彼女にとって、どうでもいい存在だったのだ。

良香のイチへの想いは、イチからの想いを受けられないことで絶望し、抽象化されて、新たに彼女のものとなった。

自分の想いを手に入れた良香はすでに、イチを思い出すことがなかった。代わりに、ニこと霧島という現実を求めるようになる。それは孤独による不安をまぎらわすためだったのだろうか。いやそれは、当初から向き合おうとしていた相手だったからに相違ない。

(おわり)

『勝手にふるえてろ』感想 ～希望悪～

この世に必要な悪を「必要悪」というのなら、必要とされない希望を「希望悪」と呼んでいいのではないか。

人間は、希望がないと生きていけないという。もつともだ。

だから、幼き頃より「希望を持ちなさい。」と何度となく刷り込まれる。やがて、その「希望」は自分の細胞となり、希望に対して何の疑いも持たなくなるのだ。

江藤良香は、自分の初恋を大事に「保存」してきた。通常だと思い出という名のもとに昇華していくものだ。だって、中二の時に終わっているのだから。

しかし、良香のいう視野見ができなくなった中三からは、その恋を時々口に入れてはしゃぶってしまう。唾液で形が変わっても、大事にジップロックで保存して、また好きなときにしゃぶるのだ。その味は、どんどん甘くなっていく。

とうとう、現実にはイチに会う機会をつくるのだが、普通はそこで目が覚める。しかし、イチに対しては恋に落ちたまま、すべてが加点方式だ。はかない頭頂部にたいしても。

逆に、二に対してはすべてが減点方式だ。人間は手に入れたモノに対して、希望ではなく現実をみるからだ。そんな厳しい状況の中でも、二は良香に対して「希望」を持ってしまう。

良香がイチに対して、決定的な結論を出されないように希望の抜け道を残すように接していた状況を、二に対して良香はつくったからだ。そこに、二の希望悪が生まれてしまう。

人間は、どうも自分の判断だけでは希望を捨てられないらしい。しかし、とうとうイチから良香は最終通告を受けた。「名前を思い出せない。」

やっと、希望をぶった切れたかと思いきや、同時にセーフティネットだった二まで失う状況になる。そこで、初めて思い出を何度もしゃぶれたのも、二の存在があったからだと気が付く。良香の妊娠騒動を知った後でも駆け付けたくらいの二の希望悪が、なぜか報われてしまった。報われることがよかったかは・・わからない。

ニーチェの「希望は悪の中でも最悪の悪である。なぜなら苦悩を引き延ばすからだ。」という言葉を体現しているような良香と二。

どうせ希望を捨てられないのなら、二のように苦悩から救われるのもまた希望・・だと信じたい。

(おわり)

岡山読書会のブログです <http://ameblo.jp/kaoru8913/>

スカイプで個別読書を主催されています。ご興味ある方はブログからお問い合わせください。

「勝手にふるえてろ」の感想

綿矢りさの「勝手にふるえてろ」を初めて読んだ。綿矢氏の芥川賞受賞作「蹴りたい背中」を受賞当時話題になっていたのを読んだことがある。クラスの辺縁にいるオタク系女子がクラスの受け身的な男子に好意と同時にSっ気のある感情を抱いていた話だったと記憶している。当時は「これが芥川賞？ずいぶんあっさりとしたものだなあ」と思ったくらいで以降綿矢氏の著作を読んだことはなかった。

本作も綿矢氏個人の性向なのか、「蹴りたい背中」と同じような設定の主人公ヨシカと草食系男子イチが登場し、舞台は社会人となり同僚のコンソメ系(体臭)男子ニとの間で主にヨシカの内面で繰り広げられる脳内三角関係が描かれている。イチ、ニというのは2ch的なネーミングだ。

ヨシカは外面的にはクラスの辺縁にいるような目立たない女性なのだけど、内面ではとても多弁でコミカルな一人ノリ突っ込みを繰り広げている。それがときに行動として現れるので、他人の名前を騙って同窓会を開いたり、妊娠したと偽って会社を休んだり随分ぶっ飛んだ行為に及ぶことがある。言わば脳内妄想が一部現実化している。

前回読書会で取り上げられた「友情」の三角関係(あるいは一般的な三角関係)と比較すると、イチとニは実際の接触はない。シンプルな話の軸としてはニに告白され、それをヨシカが受け入れるかどうか思い悩む話に、ヨシカのかつての想い人であるイチを脳内で、また実際に召喚して、紛れ込ませている話といえる。

紆余曲折の末、ヨシカはニを受け入れることにする。当初ヨシカの内面で散々な描かれ方をされていたニだが、最終的には懐の深いイイ男に変化している。それはヨシカの脳内でニのイメージが変換されたと言える。

先の読めないストーリー展開に加え、いまいちヨシカの突飛な発想、行動についていけなかった感がある。しかしながら、「ワルい方が強い」(P138)「私たちは会社にうんざりしながらも、その絶対的な居場所に甘えきっている」(P142)など、時にヨシカの独語からこぼれる真理にハッとさせられる。

(おわり)

『期待と衝動性』

「関心があるけれど関心がないふりをするのがヨシカの愛です。でもあれから12年。イチはどうだったのかな？知りたい」

私はこの小説を読んでいるうちに、自分が中学時代に夢中になった人とイチを勝手に重ね合わせていた。あの頃の自分とヨシカがニアイコールだと感じた瞬間から、この小説を客観的に読み解いていく自信がなくなった。木村君のマンション。姑息な手を使ったけれど、ここまで漕ぎ着けたんだから尋ねようよ、確かめようよ。「あの時の私の気持ちに気付いてた？」

平田が酔ったふりして変な風にイチにからんでるよ、ヨシカ！ 一心不乱を装って天然王子のイラストを描いている場合じゃないよ。

平田が寝て、やっとイチと二人で話せるチャンス到来。中二の運動会の閉会式の時、イチが「こっち見て」「おれを見て」とヨシカに言ったの、覚えている？彼は確かにその時の気持ちを覚えていた。「君だけに自分を見つめてほしかった」。

そうだったんだ！ やった！ 彼はやっぱり心のどこかでヨシカを求めていた。視線を向けないのが彼への愛だと確信し、貫き通したヨシカの心は通じていた。お互いの謎めいた心のうちが、今すっかり霧が晴れたようにクリアになり、大人の新しい恋に発展する。いい感じ、おめでとう、ヨシカ！

あれ？違った。次の瞬間にカランと音がして、イチは空のビール缶をスーパーの袋に入れている。片づけを始める二人。おいおい。そのあと眠気だましにドードー鳥について話しているうちに共通の話題から盛り上がる・・・至福のひとつのときのはずなのに、ヨシカは逆に虚しさを感じてしまっている。イチが自分のことを好きでも何でもない皮膚で感じ取ってしまっている。

それでもまだ確立の低いハッピーエンドにすがりつきたい私があった。でもイチは結局ヨシカの名前すら覚えていなかった。

ここまで冷静さを見失い振り回された私の思い込み。それとは裏腹に、ヨシカはいつの間にか二のたくましい腕に包まれていた。ヨシカがイチを勝手に解釈していたのと同じことを私もイチやヨシカにしてしまっていた。自分の衝動性が虚しい。

(おわり)

belouga さんのブログです。過去のコラムなども掲載されています。ぜひご覧ください。

『アラフォーbelouga のつれづれ』 <http://ameblo.jp/clearmandarin/>

「勝手にふるえてろ」感想

この小説の主人公、ヨシカはとにかく現実逃避をして自分の殻にこもりたがる女性である。それは、ニと会話をしているシーンを読むとよくわかるのだが、彼女は、頭の中でニの言葉に一言一言愚痴を言いつている。それを表に出して良好な関係を作っていこうとする気は感じられないし、かといってニから離れようということもしない。おそらく、都合がいいからニと一緒にいるとすら考えていないだろう。決めるのが面倒だからずるずる一緒にいるのではないだろうか。

性別こそ違えど、もしかするとヨシカは私自身なのではないか、という気がしてくる。とにかく、上から目線でものをいう一方で現実には一切コミットしない。「今の会社のここがダメだ」と口だけ達者で何もしないところが私にもあった。

ヨシカの場合、こうした現実にコミットしないという態度は、イチに惚れ込み視野見をするといった習慣を通して根付いていったものかもしれないが。

そんな自分の殻に閉じこもりがちなのヨシカにも現実に引き戻される瞬間が来る、一度目は夜中にヒーターをつけっぱなしにして布団に火がつき死にかけた時、二度目は同僚の来留美に処女であることをニにばらされ、会社に居場所がなくなってしまった時である。これは、冷静に現実を見つめるチャンスとも言えるのだが、ヨシカは暴走して悪化させてしまっている感がある。

現実を見つめて生きていくのであれば、味方になってくれそうな人がいる。実家の父と同僚の来留美である。この二人は現実に引き戻そうとしたことでヨシカに嫌われることになるが、本当にヨシカのことを考えているからこそ、そうしたのではないだろうか。

巻末の解説で辛酸なめ子さんは、ヨシカのパーソナリティならば、ニよりもやはりイチとの空想の方がよかったのでは、と書かれていたが、私はニとの関係が良好であるか以前に、現実というものに向かい合ったヨシカにエールを送りたい。

(おわり)

私を愛して、私のために

好きになった人との結婚に固執するあまり、子孫繁栄から遠ざかり自滅しかける女性が、自分の愛を諦め、他人の好意を愛として受け入れるも、絶滅していく物語。

「ごめん。なんていう名前だったか思い出せなくて」(p97)

中学生から好意を寄せている相手と社会人になって再会し、これを言われるのである。まともに話をしたことすらないのだから、相手が自分を覚えているわけもないという考えはヨシカに行き届かなく、勝手に啞然とする。自分の名は言えなかったのだろう。苦笑いをするのが精一杯のはずだ。

どれほど愛を注いだとしても、イチは本当に自分を好きになってくれることはない。自分が体験した美しい景色や感動をイチに与えることはできない。でも、二には与えられるかもしれない。それをいかにも素晴らしいことだと悟った時、ヨシカは二の好意を愛として受け入れようと決意する。

しかし、好きの対象が「愛している自分」から「愛されている自分」に変わっただけである。イチから二にスライドしただけで、誰だって構わない。

ヨシカにとっては、二の好意を愛としてのみ感じる。「付き合う」ことを「結婚」へ押し進めて、二がかつて結婚の重圧から別れることになった元彼女と同じ境遇になる可能性などヨシカは微塵にも感じてすらいない。ウィキペディアで絶滅した動物について調べ、なぜそうなったかと学習しているはずなのに、真剣に自分と照らし合わせることはない。絶滅動物をどこか遠く存在として俯瞰している。

「異性獲得のための進化に特化したせいで、逆に天敵から逃げにくく絶滅の可能性を高くするほうへ進化している動物もいる」(p121)

空回りをしているヨシカを表している。ヨシカは他人の好意を愛として受け入れるということで進化を遂げたが、愛＝結婚に固執するという所からは逃げられなくなり、相手に負担を与えることで別れを余儀なくされ、絶滅へと近づくことになるだろう。作中に登場する滅んだオオツノ「シカ」は、ヨ「シカ」である。

(おわり)

『恋×絶滅÷勇気＝愛』

期待するには若さが要る、追憶するには若さが要る、しかし反復を欲するときには勇気がある。期待のみを欲するのは卑怯である。追憶ばかり欲するのはみだらである。しかし反復を欲するのは男である。

キルケゴール『反復』岩波文庫

「イチ」は、追憶だ。ヨシカは大人になった「イチ」に、初恋の追憶を期待していた。しかし、期待を欲するのは卑怯である。視野見もなりすましも卑怯だ。鍋パまでこぎつけたが、彼女の追憶は、反復ではなかった。中2の「イチ」を模した「天然王子」は、ヨシカの追憶の中で永遠に生きるだろう。だが、「天然王子」はみだらだ。すでに絶滅した動物をウィキペディアで懐かしむのも、みだらである。

「ニ」は、反復である。単純で、前向きで、自分本位な男である。クラブにもアニメイトにもドーデー鳥にも無関心だ。彼は、昔の恋を追憶しない。彼は、愛を反復しようとしている。「ニ」は、この世界で、はじめてヨシカの希少価値を発見して、この絶滅危惧種の飼育員になってくれた。

プラトンは『追憶の恋のみが幸福な恋である』ともらした。

振り返れば、追憶の恋があり、前を向けば、反復の愛が迫ってくる。反復の愛を欲する者には、絶滅を怖れない勇気がある。ヨシカは女だ。反復を欲しない。勇気もない。彼女の初恋は、彼女自身の手によって絶滅しはじめている。そして、期待のない世界は危険だ。薄汚れた人間関係のせいで、人は邪悪になる。勇気のないものは、追憶の光を欲する。ヨシカにとっては、追憶の初恋のみが、幸福な恋である。反復の愛は、不幸のかたちをしている。なぜなら、愛は、この世界をもう一度、創造する苦痛を要求するから。反復は、神の仕業だ。勇気がなければ、この愛は強く育たない。絶滅した生き物は甦らないが、世界は何度も甦る。男がいなければ、女は、この世界を反復できない。霧島だけが、ヨシカを救える。この愛は、ふたりの生きる世界を甦らせる。それは奇跡だ。二度目の奇跡。「ニ」の反復。コンソメ風味の。

(おわり)

『信州読書会』 メルマガ登録はこちらから http://bookclub.tokyo/?page_id=714

今後のツイキャス読書会の予定です。 http://bookclub.tokyo/?page_id=2343

課題図書はこちらでお求めください <http://astore.amazon.co.jp/sphinx01-22>